

## 「第2回市と大学による座談会」次第

日時：平成22年10月29日（金）

午前10時00分～12時00分

場所：さいたま市役所本庁舎4階政策会議室

1 開会

2 市長挨拶

3 （仮称）大学コンソーシアムさいたま検討協議会の報告

4 （仮称）大学コンソーシアムさいたま設立に向けた合意書への署名

5 意見交換

『テーマ：（仮称）大学コンソーシアムさいたまについて』

6 閉会

### 【配付資料】

- ・ 次第
- ・ 「第2回市と大学による座談会」 出席者名簿
- ・ 席次
- ・ 資料1 大学コンソーシアム検討に係る経緯及びスケジュール
- ・ 資料2 テーマ別検討グループ一覧（案）
- ・ 資料3 大学コンソーシアム構築に向けた検討状況
- ・ 参考1 大学コンソーシアム構築事業の概要
- ・ 参考2 さいたま市と大学との連携事例の紹介

## 「第2回市と大学による座談会」出席者名簿

平成22年10月29日(金)

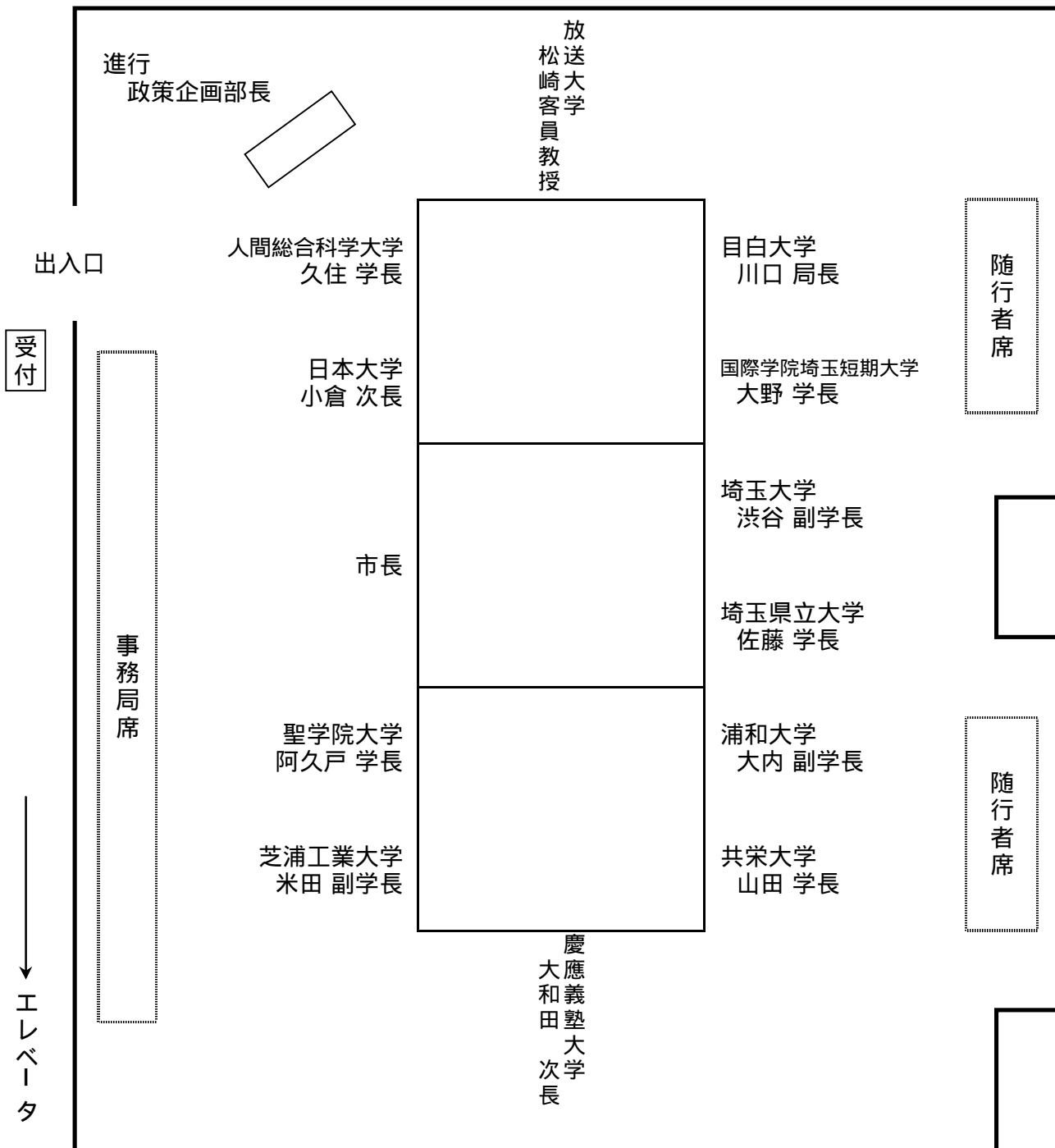
[敬称略]

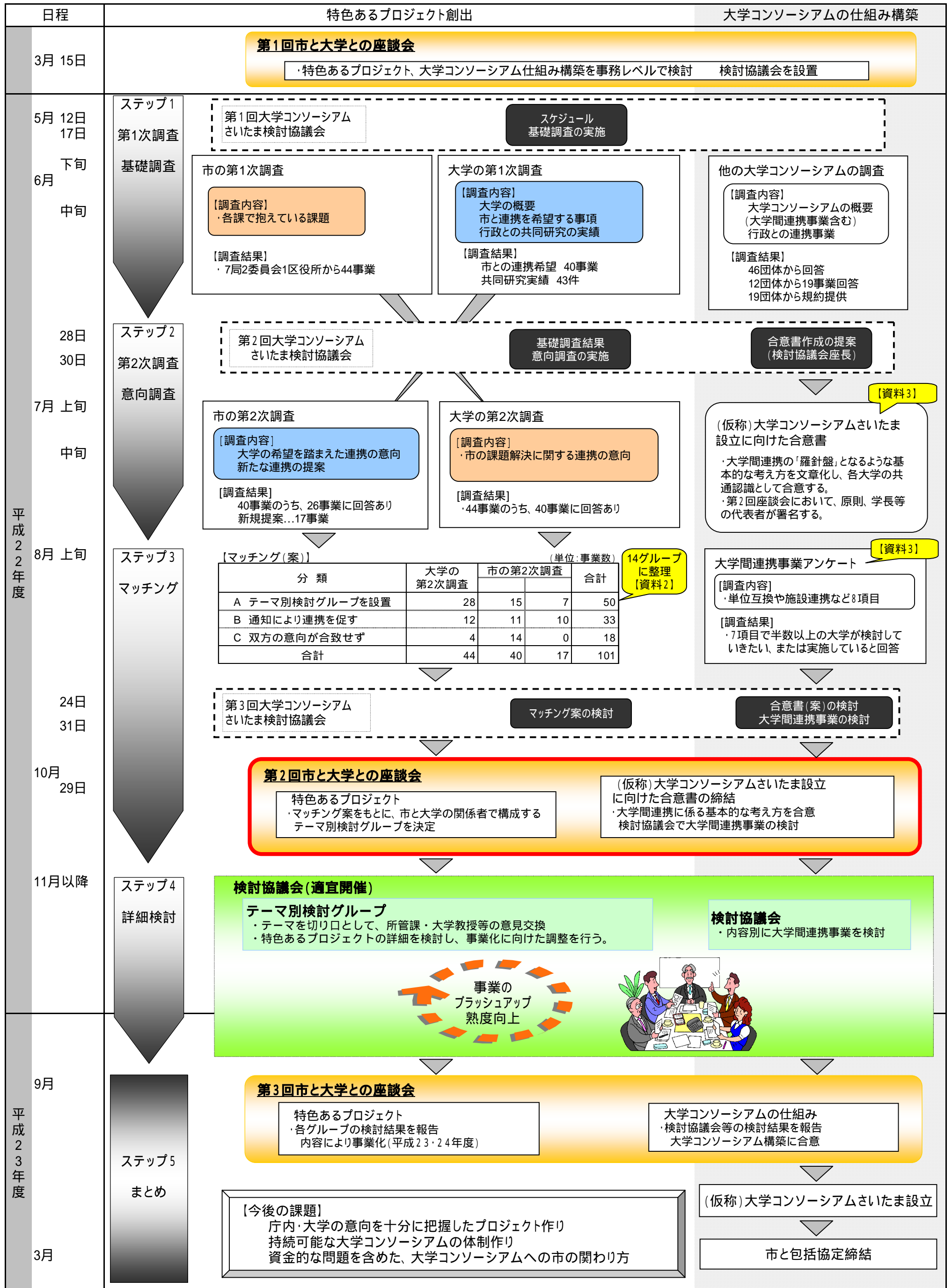
大学名	所属・役職	氏名
埼玉大学	副学長	渋谷 治美 (しぶや はるよし)
埼玉県立大学	学長	佐藤 進 (さとう すすむ)
浦和大学	副学長	大内 誠 (おおうち まこと)
共栄大学	学長	山田 和利 (やまだ かずとし)
慶應義塾大学	薬学部 芝共立キャンパス 事務次長	大和田 和平 (おおわだ かずへい)
芝浦工業大学	副学長	米田 隆志 (こめだ たかし)
聖学院大学	学長	阿久戸 光晴 (あくど みつはる)
日本大学	法学部次長	小倉 眞 (おぐら まこと)
人間総合科学大学	学長	久住 眞理 (くすみ まり)
放送大学	埼玉学習センター 客員教授	松崎 博 (まつざき ひろし)
目白大学	岩槻キャンパス 事務局長	川口 治夫 (かわぐち はるお)
国際学院 埼玉短期大学	学長	大野 博之 (おおの ひろゆき)

注)・国私短大の50音順で掲載

# 「第2回市と大学による座談会」 席次

市役所本庁舎 4階政策会議室





平成22年度

平成23年度

# テーマ別検討グループ一覧(案)

資料 2

H22.9.17

分野	番号	検討テーマ	主な検討内容(予定)	大学名
環境・アメニティ	1	環境教育	市民が参加できる環境関連講座や学内の環境配慮型施設見学会の開催など環境に関心を持つ機会の提供方法	埼玉大学 芝浦工業大学 放送大学
	2	環境にやさしい循環型社会形成	再生可能エネルギーの活用、市民協働の地球温暖化対策、レジ袋のあり方検証	共栄大学 芝浦工業大学 日本大学
	3	E-KIZUNA Project	市内企業の支援、充電施設の効果的な配置、EVの性能の高さ(加速性、静粛性)の周知	埼玉大学 共栄大学 芝浦工業大学
健康・福祉	4	地域福祉	大学を拠点とした福祉コミュニティの形成、福祉活動のネットワーク作りやボランティア組織	浦和大学
	5	(仮称)子ども総合センター機能等	「子ども研究センター」における大学と協働した研究体制の構築、新たな子どもの心理教育プログラムの開発	埼玉大学、埼玉県立大学 浦和大学、芝浦工業大学 聖学院大学 国際学院埼玉短期大学
	6	子育て支援ネットワーク	各担い手との連携・協働による相談機能の強化、地域の家族支援力の向上	埼玉大学、埼玉県立大学 浦和大学、聖学院大学 人間総合科学大学 国際学院埼玉短期大学
教育・文化・スポーツ	7	文化・スポーツ	文化・芸術・スポーツなどの企画立案・実施	埼玉大学 芝浦工業大学
	8	投票率向上	『E-Railさいたま』を活用した若者の投票率の低下に対する効果的な啓発方法	埼玉大学、埼玉県立大学 聖学院大学、日本大学 目白大学
都市基盤・交通	9	まちづくり	高度地区指定の合理性を明示する方策、重層利用の考え方、住民発意型地区計画の策定推進、芝生化の推進	埼玉大学 芝浦工業大学 放送大学
産業・経済	10	観光・コンベンション	観光客の増加(若年層の誘客)、国内外のコンベンション開催の推進	埼玉大学 共栄大学
	11	起業家支援	大学生の事業参画等を含めた早期起業家教育事業、大学生を集めたビジネスコンペ	埼玉大学、共栄大学 聖学院大学、日本大学
	12	若者の自立生活支援対策	若年者を対象とした社会的自立に関するより効果的な啓発方法	埼玉大学、聖学院大学 放送大学 国際学院埼玉短期大学
	13	WLB等企業調査	ワーク・ライフ・バランスに関する企業調査、市内外企業との取引状況やネットワークの構築状況に関する調査	芝浦工業大学
交流・コミュニティ	14	青少年の市民活動促進	青少年を対象とした新たな意識啓発、自発的に参加したくなる企画	埼玉大学 埼玉県立大学 日本大学

平成22年11月以降、大学(教授等)と市の関係所管課で、テーマ別に検討グループを作り、主な検討内容について、事業化の可否を含めて検討する。

## 大学コンソーシアム構築に向けた検討状況

合意書文（第3回検討協議会資料より）

大学間連携事業についてのアンケート結果（概要）

（仮称）大学コンソーシアムさいたま  
設立に向けた合意書

2001年の3市合併により誕生したさいたま市は、各種のインフラ整備、産業振興、新都心開発及びこれらに伴う経済活動の進展等により大きな発展を遂げてきたが、その一方で近年の経済不況を始め、環境問題、少子・高齢化や地域の活性化等、社会変化の波は急速かつ非常に大きなものとして押し寄せており、さいたま市の未来を展望する中で多くの課題が生じている。

これらの課題に対応する上で、高等教育機関の果たす役割に一層の期待が寄せられており、教育研究の高度化や魅力ある大学づくりは、地域にとって益々重要なものとなっている。

このような状況を踏まえ、さいたま市及び近隣に根ざす12大学は、それぞれが持つ多彩な魅力や豊富なシーズを相互に活用して共に高めるとともに、連携して活力ある地域社会の形成と発展に寄与すべく、「（仮称）大学コンソーシアムさいたま」の構築に向け、鋭意検討を進めていくことをここに合意する。

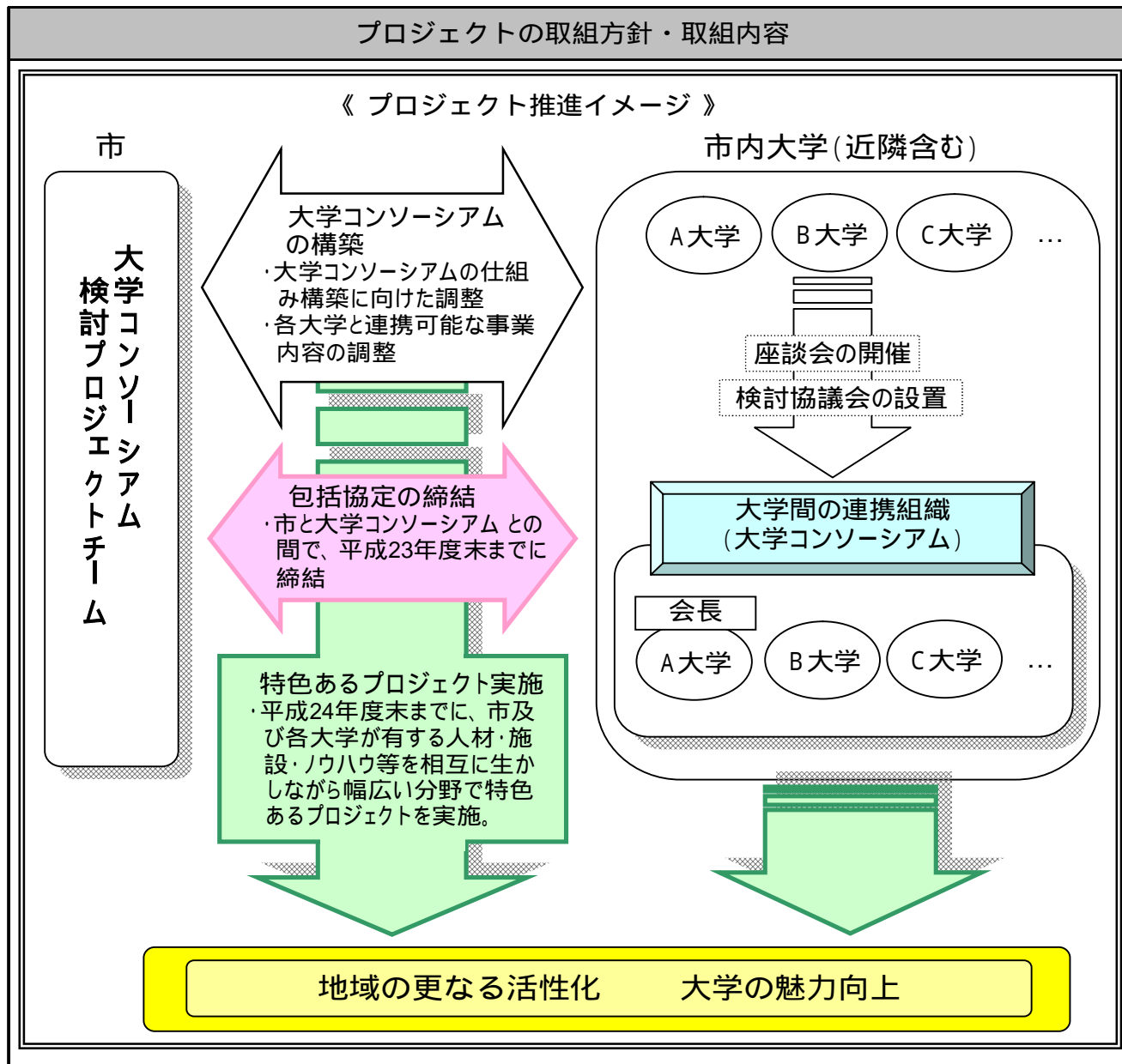
平成22年10月29日

No.	名称	事業イメージ(例)	意見・提案等(要旨)	集計結果	
1	インターンシップ	インターンシップ前後に学生への研修を合同実施 受け入れ企業の開拓		5	0
2	単位互換	学生が、他の大学の授業科目を履修し、所属大学の単位として認定		2	5
3	施設連携	図書館の相互利用 運動施設の相互利用	運動施設を他の大学の学生に開放することにより、学生交流も図れるのであれば検討したい。図書館を協定により相互利用することは可能と考える。 競技種目ごとの拠点づくり	5	2
4	高大連携	高校への出張講座 高校生が大学の講義を体験 進路選択・進学の動機付けとなる講演会	大学の設備を活用した体験授業や進路選択に関する情報提供の授業を実施したい。	4	3
5	生涯学習	市民向け公開講座を連携して実施	テーマを決めて、リレー講座を開講する。市民の集まりやすい便利な場所で開講し、地元企業や商工会なども一緒に入り、市がとりまとめ役を担えば、面白い企画が出来るのではないかと。市と連携して公開講座を実施しているが、大学間連携も考えたい。	5	4
6	留学生教育・交流	留学生同士の交流や教育に関する事業 日本人学生と留学生との交流事業		2	1
7	学生交流	大学祭などのイベントを合同で実施 学生視点で地域の生活情報誌を発行		5	0
8	FD・SD	FD(教員の授業の質を向上させる組織的な取り組み) SD(大学の経営改善を目的とした教員以外の職員の専門性を高める取り組み)	教職員の人事交流	4	3

今後事業の詳細を勉強・検討していきたい場合は「」、すでに連携事業を実施している場合は「」

～大学コンソーシアムプロジェクト～

マニフェスト	大学コンソーシアムの仕組みを構築します。
現状等	<ul style="list-style-type: none"> <li>本市と埼玉大学との間では、地域の課題に迅速かつ適切に対応するため、平成20年3月に包括協定を締結し、様々な分野において密接な協力と連携を図っています。</li> <li>今後、より活力ある地域社会の形成・発展に寄与していくためには、市と市内に存在する数多くの大学との連携やこれら大学間の連携を深めていくことが重要です。</li> </ul>



(仮称)大学コンソーシアムさいたま検討協議会の概要

- 経緯  
平成22年3月15日に、「市と大学、大学間の連携のあり方について」をテーマとして、市内及び近隣の大学との意見交換等を行う「市と大学の座談会」が開催された。  
その中で、市長及び各大学の学長等の意見として、大学コンソーシアムの仕組みを構築するため、事務担当レベルによる検討協議会を設置することとした。
- 設置趣旨  
本協議会は、市と大学、大学間の連携を促進するため、「(仮称)大学コンソーシアムさいたま」を構築するために必要な仕組みづくりについて調査・研究を行う。  
併せて、市と「(仮称)大学コンソーシアムさいたま」との包括協定のあり方、及び市と大学が連携した特色あるプロジェクトの推進について検討する。
- 所掌事項  
  - 大学コンソーシアムの仕組み構築のために必要な調査・研究に関すること。
  - 市と大学が連携して実施する特色あるプロジェクトの検討及び調整に関すること。
  - 市と大学コンソーシアムの包括協定の締結に関すること。
  - 検討協議会における検討内容等の「市と大学の座談会」への報告に関すること。
  - その他必要な事項に関すること。
- 組織・構成(平成22年5月17日現在)  
次に掲げる関係者をもって組織する。

1 埼玉大学	6 芝浦工業大学	11 目白大学
2 埼玉県立大学	7 聖学院大学	12 国際学院埼玉短期大学
3 浦和大学(短大含む)	8 日本大学	13 さいたま市
4 共栄大学	9 人間総合科学大学	
5 慶應義塾大学	10 放送大学	
- 全体スケジュール・検討の流れ(概要)
  - 座談会への経過報告(平成22年度10月頃) 結果報告(平成23年度10月頃)
  - 「(仮称)大学コンソーシアムさいたま」の設立(平成23年度末まで)
  - 市と「(仮称)大学コンソーシアムさいたま」との包括協定の締結(平成23年度末まで)
  - 特色あるプロジェクトの実施(平成24年度)

1. 市役所と大学との連携

視点  
 (市) 地域の課題解決や市の施策充実のために、大学の**専門的な知識・ノウハウ**を活用する。  
 (大学) **社会での実践活動**を通じて、授業や研究を充実させ、大学の質の向上を図る。

【事例1】さいたま教育コラボレーション協定

<事業概要>

さいたま市教育委員会と大学とが連携し、子どもたちの教育環境整備のため、教員養成や教員研修など相互に協力し、教員の資質向上と学校教育の充実を図る。

(さいたま教育コラボレーション協定の締結)



(平成22年5月21日)

<連携大学> ( )内は協定締結日

- ・埼玉大学(平成16年11月29日)
- ・共栄大学(平成22年5月21日)
- ・聖学院大学(平成22年5月21日)

<取り組み内容>

大学と連携し、学生による児童生徒への学習支援などの教育ボランティア活動や、大学教授等を講師とした教員研修、学生へのキャリア教育等を実施し、教員の資質の向上と学校教育の充実を図る。

- ・教員志望の大学生が教育現場を体験
- ・即戦力となる学生の育成及び学習指導の充実
- ・教育現場のニーズに応じた研修
- ・教員の資質向上

【事例2】さいたまカーフリーデー

<事業概要>

マイカーから環境にやさしい公共交通機関や自転車等への利用促進を図るため、平成19年度から市民団体、企業、大学等との協働による実行委員会を組織し、PRイベントを実施している。



(2010年度チラシ)

<連携大学>

- ・埼玉大学
- ・芝浦工業大学

<取り組み内容>

「さいたまカーフリーデー2010」各種ブースの出展、電動アシスト自転車の試乗会などを行う。各大学は、通行止めにした道路(歩行者天国)でのオープンカフェの企画運営、交通規制による周辺道路の影響を観測する調査等で協力している。



(会場イメージ)

カーフリーデー(車の無い日)とは、過度に車に依存しない環境づくりを目指す社会啓発活動であり、2009年にはヨーロッパを中心に世界各国の2,181都市が参加している。日本からは、さいたま市、横浜市など9都市が参加。

- ・多様な主体と協働したカーフリーデーの実施
- ・交通環境についての意識啓発
- ・交通規制の影響調査

2. 区役所と大学との連携

視点  
 (市) 大学の豊富な人材が、**地域の活力源**として、多様なまちづくり活動を推進する。  
 (大学) 地域住民に身近な大学として、**開かれた大学づくり**を実現できる。

【事例3】緑区区民まつり

<事業概要>

区民が一体となってまちづくりを行い、ふれあいのある地域社会の育成とアイデンティティーの形成を図るため、「ふれあい」をテーマとした区民協働による「区民まつり」を開催する。



(第7回緑区区民まつり)

<連携大学>

- ・浦和大学

地元の大学として地域の福祉に貢献するという立場から、第1回区民まつり以来、毎年全学的なボランティア活動の一環として毎回300名近い学生が参加し、祭りを盛り上げている。



(緑区長から表彰)

<取り組み内容>

浦和大学は、子どもたちを対象に、様々な遊びを楽しんでもらう活動を行っているほか、お年寄りに対する血圧測定、茶道部はお茶の接待、ダンス部は中央ステージでダンス披露などを行う。学生たちは地域の方々との交流を通じて、授業や実習で学んだ地域福祉のあり方について、より深く学ぶことができる。

- ・大学生が地域の祭りでボランティア活動
- ・大学生と地域住民との交流
- ・地域社会の活性化

【事例4】埼玉大学イルミネーション・プロジェクト

<事業概要>

手作り感を重視したイルミネーション制作・点灯を通して地域の活性化を図ることを目的としている。

<連携大学>

- ・埼玉大学

埼玉大学イルミネーションプロジェクト実行委員会(通称:埼玉イルミ)は2004年より活動開始。



(マスコットキャラ「ゆきまるちゃん」駅員ver.)

<取り組み内容>

桜区まちづくり事業の支援を受けて、12月の点灯に向け、手作りイルミネーションを製作する。地域住民との協同制作や子どもたちの作品を取り入れることで、他にはないあたたかいイルミネーションを演出している。

桜区まちづくり事業とは、桜区の住民のコミュニティの醸成と桜区のまちづくりを推進することを目的として設立された団体に対し、補助金を交付するものである。



(2009年度ポスター)

- ・実行委員会に対して補助金を交付
- ・特色あるまちづくりの推進
- ・地域社会の活性化